

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	解剖生理学 I (骨筋肉、消化器、感覚器)						
単位・時間数	1 単位・8/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	人体の運動器の構造と機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 骨格とはどのようなものか 骨の連結 骨格筋</p> <p>第2回 体幹の骨格と筋 上肢の骨格と筋 下肢の骨格と筋</p> <p>第3回 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮</p> <p>第4回 科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(25 点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	<p>専門的な看護を展開する基盤として、正常な人体の構造と機能を理解する必要があります。</p> <p>本科目では、人体を支える骨格及び骨格筋の構造と生命維持のメカニズムを理解し、生活体としてその生理機能を理解できるよう教授します。</p> <p>予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。</p>						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	解剖生理学 I (骨筋肉、消化器、感覚器)						
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	消化器系の構造と機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 消化器系の概観 口・咽頭の構造と機能</p> <p>第2回 食道の構造と機能 胃の構造と機能</p> <p>第3回 小腸の構造と機能 大腸の構造・機能</p> <p>第4回 膵臓の構造と機能 肝臓と胆嚢の構造と機能</p> <p>第5回 腹膜と腸間膜 腹膜と内臓の位置関係 胃の周辺の間膜</p>						
評価方法	筆記試験(30点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 第4版 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	解剖生理学 I (骨筋肉、消化器、感覚器)						
単位・時間数	1 単位・4/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 眼の構造と機能について理解する。 2. 眼疾患の特徴とその病態や検査・治療方法について理解する。						
授業計画	【眼】 第1回 眼の構造と視覚 眼球の構造、眼球付属器、視覚 症状とその病態生理 視機能に関連した症状 視機能に関連しない症状 第2回 検査と治療・処置 主な検査 視力検査、眼底検査〔演示〕 視野検査、眼球検査 主な治療 点眼法、洗眼法、手術療法 疾患の理解 屈折の異常、結膜の疾患 眼底(網膜・脈絡膜)の疾患 糖尿病網膜症 高血圧性網膜症・網膜動脈硬化症 網膜剥離、未熟児網膜症 水晶体の疾患 白内障 緑内障 その他 眼底出血、先天色覚異常						
評価方法	筆記試験(15点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[13]眼 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習をしっかりとってください。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
授業科目	解剖生理学 I (骨筋肉、消化器、感覚器)						
単位・時間数	1 単位・4/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 耳、鼻、咽頭・喉頭の構造と機能について理解する。 2. 耳鼻咽喉疾患の特徴とその病態や検査・治療方法について理解する。						
授業計画	第1回 耳の構造と機能 耳にあらわれる症状と病態生理 検査 聴力検査、平衡機能検査 耳疾患(治療・処置含む) 中耳炎、メニエール病 第2回 鼻の構造と機能 鼻にあらわれる症状と病態生理 鼻疾患(治療・処置含む) 鼻出血、鼻アレルギー、副鼻腔炎、上顎癌 口腔と唾液腺の構造と機能 咽喉頭の構造と機能 咽喉頭疾患(治療・処置含む) 咽頭炎、扁桃炎、咽頭・喉頭癌、睡眠時無呼吸 嚥下障害						
評価方法	筆記試験(15点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14]耳鼻咽喉 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習をしっかりとってください。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学 I (骨筋肉、消化器、感覚器)	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
単位・時間数	1 単位・4/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 皮膚の構造と機能について理解する。 2. 皮膚疾患の特徴とその病態や検査・治療方法について理解する。						
授業計画	第1回 皮膚の構造と機能 症状とその病態生理 発疹、掻痒(かゆみ)、皮膚の老化 検査と治療・処置 検査 皮膚科的検査法、病理微生物の検査法 病理組織検査法 治療・処置 内服療法、外用療法、手術療法 第2回 疾患の理解と看護 表在性皮膚疾患 湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹 薬疹、水疱症、乾癬 熱傷 皮膚の悪性腫瘍 感染症 白癬、帯状疱疹、疥癬 褥瘡						
評価方法	筆記試験(15点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[12] 皮膚(医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習をしっかりとってください。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸器、循環器、 血液造血器、脳神経)	講師名	院内講師	学年	1 学年	履 修 期	1 学期
単位・時間数	1 単位・6/30 時間	実務経験の 有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	呼吸器系の構造と機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 呼吸のメカニズムの概要 内呼吸と外呼吸 呼吸器の構造 上気道(鼻・咽頭・喉頭) 下気道(気管・気管支)と肺 胸膜と縦隔</p> <p>第2回 呼吸器の機能 呼吸器と呼吸運動 呼吸気量 ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸運動の調整</p> <p>第3回 呼吸器系の病態生理 換気障害、拡散障害、換気血流比不均等、 右-左短絡</p>						
評価方法	筆記試験(20点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸器、循環器、 血液造血器、脳神経)	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 循環器系の構造と機能について理解する。 2. 血液の生理機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 循環器系の構造 心臓の構造 末梢循環の構造</p> <p>第2回 心臓の拍出機能 心臓の興奮とその伝播 心電図 心臓の収縮 心拍出量の血圧 心周期 心室の圧 心音と心雑音</p> <p>第3回 血液の循環とその調整 血圧(最高血圧と最低血圧) 血液の循環 血圧・血液量の調節 リンパとリンパ管 リンパ管の構造 リンパの循環 微小循環 循環器系の病態生理</p> <p>第4回 血液のはたらき 血液の組成と機能 赤血球 白血球 血小板 血漿タンパク質と赤血球沈降速度 血液の凝固と線維素溶解 血液型</p> <p>第5回 生体の防御機構 非特異的防御機構 特異的防御機構—免疫</p>						
評価方法	筆記試験(30点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸器、循環器、 血液造血器、脳神経)	講師名	院外講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
単位・時間数	1 単位・14/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	脳・神経系の構造や機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 神経系の構造と機能 1) 神経細胞と支持細胞 2) ニューロンでの興奮の伝導 3) シナプスでの興奮の伝達 4) 神経系の構造</p> <p>第2回 脊髄と脳 1) 脊髄の構造と機能 2) 脳の構造と機能 脊髄神経と脳神経 1) 脊髄神経の構造と機能 2) 脳神経の構造と機能</p> <p>第3回 脳の高次機能 1) 脳波と睡眠 2) 記憶 3) 本能行動と情動行動 4) 内臓調節機能 5) 中枢神経系の障害</p> <p>第4回 運動機能と下行伝導路 1) 運動ニューロン 2) 下行(遠心)伝導路</p> <p>第5回 感覚機能と上行伝導路 1) 感覚の種類 2) 感覚の性質 3) 体性感覚の受容器の種類 4) 皮膚の感覚受容器の分布 5) 上行(求心)伝導路</p> <p>第6回 症状とその病態生理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 頭蓋内圧亢進症状と脳ヘルニア</p> <p>第7回 科目終了試験 科目の振り返り</p>						
評価方法	筆記試験(50点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	<p>専門的な看護を展開する基盤として、正常な人体の構造と機能を理解する必要があります。</p> <p>本科目では、中枢神経(脳・脊髄)と末梢神経(体性神経・自律神経)の構造と生命維持のメカニズム、生活体としての生理機能を理解できるように教授します。また、脳機能障害の病態生理について理解できるように教授します。</p> <p>予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。</p>						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅲ (内分泌、腎・泌尿器、生殖器)	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
単位・時間数	1 単位・4/15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	自律神経系・内分泌系の構造と機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 自律神経の構造と機能 内分泌による調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞 視床下部-下垂体系 甲状腺と副甲状腺 膵臓 副腎 性腺 その他の内分泌腺</p> <p>第2回 ホルモン分泌の調節 ホルモン分泌による調節の実際 ホルモンによる糖代謝の調節 ホルモンによるカルシウム代謝の調節 ストレスとホルモン 乳房の発達と乳汁分泌 高血圧をきたすホルモン</p>						
評価方法	筆記試験(30点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅲ (内分泌、腎・泌尿器、生殖器)	講師名	院外講師	学年	1 学年	履修期	1 学期
単位・時間数	1 単位・7/15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	腎・泌尿器系の構造と機能について理解する。						
授業計画	<p>第1回 腎臓の構造と機能(1) 糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能 傍糸球体装置 クリアランスと糸球体濾過量</p> <p>第2回 腎臓の構造と機能(2) 腎臓から分泌される生理活性物質 排尿路の構造 尿の貯蔵と排尿</p> <p>第3回 体液の調節 水の出納 脱水 電解質の異常 酸塩基平衡 生殖のしくみ 男性生殖器の構造と機能</p> <p>第4回 科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(40点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	解剖生理学Ⅲ (内分泌、腎・泌尿器、 生殖器)	講師名	院内講師	学 年	1 学年	履 修 期	1 学期
単位・時間数	1 単位・4/15 時間	実務経験の 有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 女性生殖器の構造と発生について理解する。 2. 乳がんの特徴とその病態について理解する。						
授業計画	第1回 1. 生殖・発生のしくみ 男女生殖器の構造 受精と胎児の発生 生殖に関連するホルモン 第2回 2. 代表的な女性生殖器疾患の病態 月経異常 更年期障害 乳がん 3. 感染症 1) 性感染症						
評価方法	筆記試験 (30 点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)						
参考書	1. カラーアトラス 人体 解剖と機能 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	予習・復習を必ず行い、講義毎に名称を確実に覚えて理解して学習を進めて下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	1 学年	履修期	2学期
授業科目	解剖生理学IV (形態と機能の統合)						
単位・時間数	1 単位・15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・実習						
科目目標	1. 人体の実物や標本を観察することにより、形態や機能についての知識を習得する。						
授業計画	<p>第1～2回〔解剖見学・実習〕 骨学統合:骨学 人骨を組み立てる 骨格の名称</p> <p>第3～4回〔解剖見学・実習〕 骨学統合:組織 人間や動物の細胞の観察・スケッチ</p> <p>第5～7回〔解剖見学・実習〕 人体統合:人体標本実習 各臓器に触れる 各臓器の説明</p> <p>第8回 科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	<p>1. カラーアトラス人体 解剖と機能 第4版(医学書院)</p> <p>2. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(医学書院)</p>						
参考書							
備考 (メッセージ)	講義と実習を交えて学習を進めていきます。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	専任教員	学年	1 学年	履修期	2 学期
授業科目	形態機能探求						
単位・時間数	1 単位・15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. 日常生活行動のからだの仕組みを理解する。						
授業計画	<p>第1回(講義) なぜ看護師が解剖生理学を学ぶのか 生きる、生活するためのからだの仕組み (内部環境の恒常性) 流通機構(ポンプ機能)</p> <p>第2回(演習) なぜ私たちは眠るの? 眠気、からだのリズム、眠る、熟睡感 24 時間の活動 目覚める、思考する 眠りから覚める時のからだの仕組み 目覚めている時のからだの仕組み 思考する時のからだの仕組み 情報の整理(脳) エネルギー(糖の消費)</p> <p>第3～6回(演習) なぜ私たちは動けるの? 歩く・つまむ・表情 神経から筋への指令と筋肉の収縮 関連する骨格、骨格筋、関節の働き 運動後の脈拍、血圧、呼吸の変化</p> <p>なぜ私たちはおいしく食べられるの? 食欲、食行動、咀嚼・味わう、嚥下、 消化・吸収、栄養量</p> <p>なぜトイレに間に合うのか 尿意、尿の生成、排尿 便意、排便</p> <p>なぜ清潔にするのか 皮膚の構造と機能、バリア機能 微細運動</p> <p>第7回(演習) なぜ私たちは会話ができるの? 声を出す、聞く、言葉を認識する</p> <p>第8回(講義) 生きているとは? 免疫、活動と休息</p>						
評価方法	レポート課題(60点) 授業での課題(40点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能[1] (医学書院)						
参考書	1. 看護 形態機能学 第4版 生活行動から見るからだ(日本看護協会出版会)						
備考 (メッセージ)	<p>人体の構造と人間の機能をつなげ、さまざまな日常生活行動がどのような体のメカニズムで起こっているのかを理解する科目です。この科目では、目に見える動作から体に起こっている変化だけでなく、それぞれの動作に至る思考や神経のメカニズムを理解し、体の変化を自分たちで調べ学んでいきます。そして、生活援助技術やヘルスアセスメントなどの科目につなげ、看護に活かせることを期待しています。</p> <p>【関連科目】 解剖生理学Ⅰ(骨筋肉、消化器、感覚器)、解剖生理学Ⅱ(循環・血液、呼吸器、脳神経)、解剖生理学Ⅲ(腎・泌尿器、生殖器、内分泌)</p>						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	履修期	1 学期		
授業科目	生化学			1 学年				
単位・時間数	1 単位・30 時間	実務経験の有無	有					
授業方法	講義							
科目目標	1. 生体を構成している細胞と、生体に必要な物質の構造や特徴を理解する。 2. 生体内でのエネルギー産生の仕組み、酵素の働き、遺伝情報、シグナル伝達を理解する。 3. 生体内での生化学反応に異常をきたした場合に発症する疾患について理解する。							
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 生化学を学ぶための基礎知識 生物学と化学の基本 細胞の構造と機能 エントロピーとは 第2回 代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の特徴と代謝系における働き 第3回 糖質の構造と機能 生命維持に必要な糖の種類と構造 糖質の機能 第4回 糖質代謝 糖をエネルギーに変える仕組み 余分な糖の貯蔵方法 糖質代謝に関する遺伝性疾患 第5回 脂質の構造と機能 脂質の特徴と生体に存在する主な脂質 第6回 脂質代謝 脂質をエネルギーに変える仕組み 生体内での脂質の合成・分解 脂質代謝に関する遺伝性疾患 第7回 タンパク質の構造と機能 タンパク質の構成成分であるアミノ酸とタンパク質の構造 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第8回 タンパク質代謝 タンパク質の合成と不要になったタンパク質の分解 ポルフィリン異物代謝 ポルフェリン構造と活性酵素の除去 解毒作用 第9回 遺伝子と核酸 遺伝情報 遺伝学の基礎知識 DNA の配列からタンパク質ができる仕組み 第10回 遺伝子の複製・修復・組換え DNA の複製と損傷の修復 遺伝の多様性が起こる仕組み 第11回 転写 DNA の遺伝情報が RNA に伝えられる仕組み 第12回 翻訳と翻訳後修飾 mRNA からタンパク質の合成と高次構造の形成 翻訳後修飾 第13回 シグナル伝達 細胞外からの刺激が細胞内に伝達される仕組み 第14回 がん がんの性質と原因遺伝子 薬物療法の作用機序 第15回 科目終了試験 科目の振り返り </td> </tr> </table>						第1回 生化学を学ぶための基礎知識 生物学と化学の基本 細胞の構造と機能 エントロピーとは 第2回 代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の特徴と代謝系における働き 第3回 糖質の構造と機能 生命維持に必要な糖の種類と構造 糖質の機能 第4回 糖質代謝 糖をエネルギーに変える仕組み 余分な糖の貯蔵方法 糖質代謝に関する遺伝性疾患 第5回 脂質の構造と機能 脂質の特徴と生体に存在する主な脂質 第6回 脂質代謝 脂質をエネルギーに変える仕組み 生体内での脂質の合成・分解 脂質代謝に関する遺伝性疾患 第7回 タンパク質の構造と機能 タンパク質の構成成分であるアミノ酸とタンパク質の構造	第8回 タンパク質代謝 タンパク質の合成と不要になったタンパク質の分解 ポルフィリン異物代謝 ポルフェリン構造と活性酵素の除去 解毒作用 第9回 遺伝子と核酸 遺伝情報 遺伝学の基礎知識 DNA の配列からタンパク質ができる仕組み 第10回 遺伝子の複製・修復・組換え DNA の複製と損傷の修復 遺伝の多様性が起こる仕組み 第11回 転写 DNA の遺伝情報が RNA に伝えられる仕組み 第12回 翻訳と翻訳後修飾 mRNA からタンパク質の合成と高次構造の形成 翻訳後修飾 第13回 シグナル伝達 細胞外からの刺激が細胞内に伝達される仕組み 第14回 がん がんの性質と原因遺伝子 薬物療法の作用機序 第15回 科目終了試験 科目の振り返り
第1回 生化学を学ぶための基礎知識 生物学と化学の基本 細胞の構造と機能 エントロピーとは 第2回 代謝の基礎と酵素・補酵素 代謝と生体のエネルギー 酵素の特徴と代謝系における働き 第3回 糖質の構造と機能 生命維持に必要な糖の種類と構造 糖質の機能 第4回 糖質代謝 糖をエネルギーに変える仕組み 余分な糖の貯蔵方法 糖質代謝に関する遺伝性疾患 第5回 脂質の構造と機能 脂質の特徴と生体に存在する主な脂質 第6回 脂質代謝 脂質をエネルギーに変える仕組み 生体内での脂質の合成・分解 脂質代謝に関する遺伝性疾患 第7回 タンパク質の構造と機能 タンパク質の構成成分であるアミノ酸とタンパク質の構造	第8回 タンパク質代謝 タンパク質の合成と不要になったタンパク質の分解 ポルフィリン異物代謝 ポルフェリン構造と活性酵素の除去 解毒作用 第9回 遺伝子と核酸 遺伝情報 遺伝学の基礎知識 DNA の配列からタンパク質ができる仕組み 第10回 遺伝子の複製・修復・組換え DNA の複製と損傷の修復 遺伝の多様性が起こる仕組み 第11回 転写 DNA の遺伝情報が RNA に伝えられる仕組み 第12回 翻訳と翻訳後修飾 mRNA からタンパク質の合成と高次構造の形成 翻訳後修飾 第13回 シグナル伝達 細胞外からの刺激が細胞内に伝達される仕組み 第14回 がん がんの性質と原因遺伝子 薬物療法の作用機序 第15回 科目終了試験 科目の振り返り							
評価方法	筆記試験(100点)							
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学 (医学書院)							
参考書	補足資料を単元毎に配布しますので、参考書を各自で準備する必要はありません。自学自習でさらに理解を深めたい場合は、参考書籍を紹介しますので申し出てください。							
備考 (メッセージ)	学習内容が多岐にわたっているため、講義の進行速度はかなり早いです。できるだけ図や写真を用いて、理解しやすい講義を目指します。単元毎に、まずテキストを理解するために必要な予備知識の解説を行います。その後テキストに沿って講義形式で学習を進めます。予習の必要はありませんが復習は行って下さい。講義後、テキスト・補足資料を再読すると学習した内容の定着率が上がります。もし、理解できない部分があれば遠慮なく質問してください。その場で答えられる質問はその場で解説し、解説するために資料が必要な場合は、次回までに資料の準備をし説明します。							

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期
授業科目	栄養学 I (栄養代謝)						
単位・時間数	1 単位・15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 人が健康に生きていくために必要な栄養素の種類とその役割を理解する。 2. 身体状況や栄養状態に応じたマネジメントや各ライフステージ別の栄養について理解する。						
授業計画	第1回 人間栄養学と看護 栄養学を学ぶということ 保健・医療における栄養学 看護と栄養 栄養素の種類とはたらき : 糖質・脂質・タンパク質 第2回 栄養素の種類とはたらき : ビタミン・ミネラル・食物繊維 第3回 食物の消化と栄養素の吸収・代謝 第4回 エネルギー代謝 食品のエネルギー 体内のエネルギー エネルギー代謝の測定 エネルギー消費 食事と食品 日本人の食事摂取基準 食品と栄養素 食品群とその分類法 第5回 栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定 栄養アセスメントの目的 栄養状態の評価・判定法 第6回 ライフステージと栄養① : 乳児期、幼児期、学童期における栄養 ライフステージと栄養② : 思春期・青年期、成人期、妊娠期、授乳期における栄養 第7回 ライフステージと栄養③ : 更年期、高齢期における栄養 まとめ 第8回 科目終了試験						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3]栄養学 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	講義形式で内容をわかりやすく説明します。 講義内容を聴き、不明なことは時間毎に解決できるようにして下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期		
授業科目	臨床薬理学								
単位・時間数	1 単位・30 時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義								
科目目標	1. 薬物の作用機序や特徴をふまえて、作用・副作用について理解する。 2. 薬剤の取り扱いや管理方法を理解する。 3. 薬物を取り巻く法的制度について理解する。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 1) 薬物とはなにか 2) 薬の使用目的 3) 薬物療法における看護師の役割 第2回 1) 薬が作用するしくみ 2) 薬の体内の挙動(薬物動態学) 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤、新薬の開発) 第3回 抗感染症薬 第4回 抗がん薬 第5回 免疫治療薬 第6回 抗アレルギー薬、抗炎症薬 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第7回 末梢での神経活動に作用する薬 第8～9回 中枢神経系に作用する薬 第10～11回 循環器系に作用する薬 第12回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 第13回 物質代謝に作用する薬 第14回 1) 皮膚科用薬 2) 眼科用薬 3) 救急時使用される薬 4) 漢方薬 5) 消毒薬 6) 輸液製剤・輸血剤 7) 処方箋、添付文書 第15回 科目終了試験 </td> </tr> </table>							第1回 1) 薬物とはなにか 2) 薬の使用目的 3) 薬物療法における看護師の役割 第2回 1) 薬が作用するしくみ 2) 薬の体内の挙動(薬物動態学) 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤、新薬の開発) 第3回 抗感染症薬 第4回 抗がん薬 第5回 免疫治療薬 第6回 抗アレルギー薬、抗炎症薬	第7回 末梢での神経活動に作用する薬 第8～9回 中枢神経系に作用する薬 第10～11回 循環器系に作用する薬 第12回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 第13回 物質代謝に作用する薬 第14回 1) 皮膚科用薬 2) 眼科用薬 3) 救急時使用される薬 4) 漢方薬 5) 消毒薬 6) 輸液製剤・輸血剤 7) 処方箋、添付文書 第15回 科目終了試験
第1回 1) 薬物とはなにか 2) 薬の使用目的 3) 薬物療法における看護師の役割 第2回 1) 薬が作用するしくみ 2) 薬の体内の挙動(薬物動態学) 3) 薬物相互作用 4) 薬効の個人差に影響する因子 5) 薬物使用の有益性と危険性 6) 薬と法律(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤、新薬の開発) 第3回 抗感染症薬 第4回 抗がん薬 第5回 免疫治療薬 第6回 抗アレルギー薬、抗炎症薬	第7回 末梢での神経活動に作用する薬 第8～9回 中枢神経系に作用する薬 第10～11回 循環器系に作用する薬 第12回 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬 第13回 物質代謝に作用する薬 第14回 1) 皮膚科用薬 2) 眼科用薬 3) 救急時使用される薬 4) 漢方薬 5) 消毒薬 6) 輸液製剤・輸血剤 7) 処方箋、添付文書 第15回 科目終了試験								
評価方法	筆記試験(100点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学 (医学書院)								
参考書									
備考 (メッセージ)	講義形式で、事例や経験談を用いて、内容をわかり易く説明します。配布した資料はしっかりと目を通し学習に役立ててください。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期		
授業科目	病理学								
単位・時間数	1 単位・30 時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義								
科目目標	1. 人体の構造について解剖及び組織をふまえて、病気の原因や経過を理解する。 2. 組織の形態や機能的変化を理解する。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 病理学とは 細胞、組織 形からみた人体・素材からみた人体 機能からみた人体 (解剖生理学テキスト第1章) 第2回 循環器系 第3回 血液及び関係臓器 第4回 呼吸器系 第5～6回 消化器系 第7回 泌尿器系 第8回 生殖器系 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第9回 内分泌系 第10回 中枢神経系 第11回 循環障害 第12回 炎症 第13回 皮膚 運動器 腫瘍 第14回 退行性病変 感染症 第15回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分) </td> </tr> </table>							第1回 病理学とは 細胞、組織 形からみた人体・素材からみた人体 機能からみた人体 (解剖生理学テキスト第1章) 第2回 循環器系 第3回 血液及び関係臓器 第4回 呼吸器系 第5～6回 消化器系 第7回 泌尿器系 第8回 生殖器系	第9回 内分泌系 第10回 中枢神経系 第11回 循環障害 第12回 炎症 第13回 皮膚 運動器 腫瘍 第14回 退行性病変 感染症 第15回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)
第1回 病理学とは 細胞、組織 形からみた人体・素材からみた人体 機能からみた人体 (解剖生理学テキスト第1章) 第2回 循環器系 第3回 血液及び関係臓器 第4回 呼吸器系 第5～6回 消化器系 第7回 泌尿器系 第8回 生殖器系	第9回 内分泌系 第10回 中枢神経系 第11回 循環障害 第12回 炎症 第13回 皮膚 運動器 腫瘍 第14回 退行性病変 感染症 第15回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)								
評価方法	筆記試験(100点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学(医学書院)								
参考書	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 (医学書院)								
備考 (メッセージ)	講義形式で、病理各論への理解に繋がるように内容をわかり易く説明していきます。資料を中心にすすめるので講義終了時不明な点は質問し、時間毎にしっかりと学習を進めて下さい。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2 学期
授業科目	疾病治療論 I (呼吸器、循環器、血液造血器)						
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	呼吸器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。						
授業計画	<p>第1回 症状とその病態生理 自覚症状 咳嗽 喀痰 血痰・咯血 胸痛 呼吸困難 他覚症状 チアノーゼ ばち指 発熱 呼吸の異常 声の異常 いびき 意識障害</p> <p>第2回 検査と治療・処置 診察と診断の流れ 検査 血液検査 喀痰検査 咽頭ぬぐい液・鼻腔 ぬぐい液検査 胸水検査 画像診断 内視鏡検査 生検 呼吸機能検査 治療・処置 吸入療法 酸素療法 人工呼吸療法 呼吸リハビリテーション 気道確保 胸腔ドレナージ 呼吸器外科の手術</p>		<p>第3回～5回 疾患の理解 感染症 かぜと急性気管支炎 インフルエンザ 肺炎 結核 非結核性抗酸菌症 間質性肺疾患 原因不明の間質性肺炎 サルコイドーシス 好酸球性肺疾患 過敏性肺炎 塵肺 薬剤性肺炎 放射線肺炎 気道疾患 気管支喘息 気管支拡張症 慢性閉塞性疾患 肺循環疾患 肺血栓塞栓症 肺高血圧症 呼吸不全 呼吸不全の病態生理 急性呼吸窮迫症候群 肺性心 呼吸調整に関する疾患 過換気症候群 睡眠時無呼吸症候群 肺腫瘍 良性腫瘍 悪性腫瘍 肺・肺血管の形成異常 肺分画症 肺動静脈瘻 胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 肺移植 胸部外傷 肋骨骨折 横隔膜破裂 肺損傷 気管・気管支損傷</p>				
評価方法	筆記試験(35点)						
テキスト	3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ呼吸器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。 高知病院で一緒に頑張りましょう。						

科目区分	専門基礎分野						
授業科目	疾病治療論 I (呼吸器、循環器、血液造血器)	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2 学期
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	循環器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。						
授業計画	<p>第1回 症状とその病態生理 胸痛 動悸 呼吸困難 浮腫 チアノーゼ めまい・失神 四肢の疼痛 ショック</p> <p>第2回 検査と治療 検査 心電図 胸部 X 線検査 心エコー法 脈波検査 心臓カテーテル法 血行動態 モニタリング 心臓核医学検査 CT MRI 治療 内科的治療 外科的治療 補助循環装置</p>		<p>第3～5回 疾患の理解 虚血性心疾患 労作性狭心症 冠攣性狭心症 急性冠症候群 急性心筋梗塞 冠状動脈硬化の危険因子 心不全 血圧異常 本態性高血圧 二次性高血圧 本態低血圧 不整脈 徐脈性不整脈 頻脈性不整脈 弁膜症 僧帽弁狭窄症 僧帽弁閉鎖不全症 大動脈 弁狭窄症 大動脈弁閉鎖不全症 その他の 弁膜症 感染性心内膜症 心膜炎 急性心膜炎 心タンポナーデ 慢性心膜炎 心筋疾患 心筋症 心筋炎 心臓の腫瘍 慢性心 先天性心疾患 動脈管開存症 心房中隔欠損症 心室中隔 欠損症 ファロー四徴症 完全大血管転位 (換) 症 動脈系疾患 大動脈瘤 大動脈解離 動脈の閉塞性疾患 静脈性疾患 血栓性静脈炎・静脈血栓症 深部静脈血栓症 静脈瘤 肺塞栓症 上大静脈症候群 リンパ系疾患 リンパ管炎 リンパ節炎 リンパ浮腫</p>				
評価方法	筆記試験 (35点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ循環器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。 わかりやすい授業を心がけたいと思います。 何か質問があれば、いつでも声をかけてください。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2 学期		
授業科目	疾病治療論 I (呼吸器、循環器、血液造血器)								
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義								
科目目標	血液・造血器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1～2回 検査・診断と症候・病態生理 病歴聴取と身体所見 貧血 発熱 リンパ節腫脹・脾腫 検査 末梢血検査 骨髄穿刺・骨髄生検 出血傾向の検査 リンパ節生検 細胞表皮マーカー 染色体検査 遺伝子検査 症候とその病態生理 貧血 白血球増加症 白血球減少症 脾腫 リンパ節腫脹 出血性素因</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第3～4回 疾患と治療の理解 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血 鉄代謝異常によるその他の貧血 巨赤芽球性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 二次性貧血 白血球の異常 無顆粒球症 顆粒球機能異常症 伝染性単核球症 造血器腫瘍 急性白血病 MDS CML MPN CLL ATLL 悪性リンパ腫 骨髄腫および類縁疾患 血球貪食症候群 出血性疾患 血管異常による出血性疾患 血小板異常による出血性疾患 凝固異常による出血性疾患 播腫性血管内凝固症候群 DIC)</p> <p>第5回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)</p> </td> </tr> </table>							<p>第1～2回 検査・診断と症候・病態生理 病歴聴取と身体所見 貧血 発熱 リンパ節腫脹・脾腫 検査 末梢血検査 骨髄穿刺・骨髄生検 出血傾向の検査 リンパ節生検 細胞表皮マーカー 染色体検査 遺伝子検査 症候とその病態生理 貧血 白血球増加症 白血球減少症 脾腫 リンパ節腫脹 出血性素因</p>	<p>第3～4回 疾患と治療の理解 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血 鉄代謝異常によるその他の貧血 巨赤芽球性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 二次性貧血 白血球の異常 無顆粒球症 顆粒球機能異常症 伝染性単核球症 造血器腫瘍 急性白血病 MDS CML MPN CLL ATLL 悪性リンパ腫 骨髄腫および類縁疾患 血球貪食症候群 出血性疾患 血管異常による出血性疾患 血小板異常による出血性疾患 凝固異常による出血性疾患 播腫性血管内凝固症候群 DIC)</p> <p>第5回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)</p>
<p>第1～2回 検査・診断と症候・病態生理 病歴聴取と身体所見 貧血 発熱 リンパ節腫脹・脾腫 検査 末梢血検査 骨髄穿刺・骨髄生検 出血傾向の検査 リンパ節生検 細胞表皮マーカー 染色体検査 遺伝子検査 症候とその病態生理 貧血 白血球増加症 白血球減少症 脾腫 リンパ節腫脹 出血性素因</p>	<p>第3～4回 疾患と治療の理解 赤血球系の異常 鉄欠乏性貧血 鉄代謝異常によるその他の貧血 巨赤芽球性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血 二次性貧血 白血球の異常 無顆粒球症 顆粒球機能異常症 伝染性単核球症 造血器腫瘍 急性白血病 MDS CML MPN CLL ATLL 悪性リンパ腫 骨髄腫および類縁疾患 血球貪食症候群 出血性疾患 血管異常による出血性疾患 血小板異常による出血性疾患 凝固異常による出血性疾患 播腫性血管内凝固症候群 DIC)</p> <p>第5回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)</p>								
評価方法	筆記試験(30点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器 (医学書院)								
参考書									
備考 (メッセージ)	<p>専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ循環器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。</p> <p>わかりやすい授業を心がけたいと思います。</p> <p>何か質問があれば、いつでも声をかけてください。</p>								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期
授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化器、感染症・免疫、内分泌・代謝)						
単位・時間数	1 単位・10/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	消化器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。						
授業計画	<p>第1回</p> <p>1. 食道の疾患 1) 食道がん</p> <p>2. 胃・十二指腸疾患 1) 胃・十二指腸潰瘍 2) 胃がん</p> <p>第2～3回</p> <p>1. 腸および腹膜疾患 1) 腸炎 2) イレウス 3) 消化管憩室・腸管ポリープ 4) 結腸がん、直腸がん 5) ノロウイルス、ロタウイルス、大腸菌感染症</p> <p>第4～5回</p> <p>1. 肝臓・胆嚢の疾患 1) 肝炎 2) 肝硬変症 3) 肝臓がん 4) 胆石症 5) 胆嚢がん</p> <p>2. 膵臓の疾患 1) 膵炎 2) 膵臓がん</p> <p>第1～5回に共通する授業内容 各疾患に応じた検査と治療</p> <p>1. 代表的な消化器系の検査 1) 超音波検査 2) 内視鏡検査 3) 肝生検 4) ERCP、PTC 5) CT、MRI、MRCP</p> <p>2. 代表的な消化器疾患の治療 1) 手術療法 (1) 食道全摘術 (2) 胃全摘術 (3) 噴門・幽門側胃切除術 (4) 大腸切除術 (5) 人工肛門造設術 (6) 肝臓切除術 (7) 胆嚢摘出術 (8) 膵頭十二指腸切除術</p> <p>2) 放射線療法 3) 薬物療法 4) 食事療法</p>						
評価方法	筆記試験(35点)						
テキスト	4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5]消化器 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ消化器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。 テキストをよく読んでおいて下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2 学期
授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化器、感染症・免疫、内分泌・代謝)						
単位・時間数	1 単位・6/30 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	感染症、アレルギー、自己免疫異常に起因する疾患の特徴とその病態や検査・治療方法について理解する。						
授業計画	<p>第1回</p> <p>1. アレルギー疾患 1) アナフィラキシー 2. 自己免疫疾患 1) 関節リウマチ 2) 全身性エリテマトーデス</p> <p>第2回</p> <p>1. 麻疹、風疹、水痘、HIV 感染症と日和見感染症 2. 菌血症、敗血症</p> <p>第3回</p> <p>1. 自己免疫疾患 3) シェーグレン症候群 4) ベーチェット病</p> <p>第1～3回に共通する授業内容 各疾患、障害に応じた検査と治療 1. 代表的なアレルギー、自己免疫機能障害の検査 1) アレルギー疾患 (1) 血液検査(好酸球数、IgE) 2) 自己免疫疾患 (1) 血清・免疫学的検査 (2) 穿刺検査 2. 代表的なアレルギー、自己免疫機能障害の治療 1) 薬物療法 2) 減感作療法</p>						
評価方法	筆記試験(25点)						
テキスト	5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症(医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ知識を活かして学習を進めてほしいと思います。視覚的な講義を中心としながら、一人ずつへの質問を織り交ぜていきます。質問には必ず答え、自分の意見を述べて下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1学年	履修期	2学期
授業科目	疾病治療論Ⅱ (消化器、感染症・免疫、内分泌・代謝)						
単位・時間数	1単位・14/30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	内分泌疾患の特徴とその病態や検査・治療方法について理解する。						
授業計画	<p>第1回 糖尿病の病態と分類・診断 診断や治療に関連した検査</p> <p>第2回 糖尿病の治療・合併症 糖尿病と妊娠 高齢者における糖尿病</p> <p>第3～4回 脂質異常症の病態や検査・治療方法 肥満症とメタボリックシンドロームの病態や検査・治療方法(1) 尿酸代謝異常の病態や検査・治療方法</p> <p>第5回 甲状腺疾患の病態や検査・治療方法 性腺疾患の病態や検査・治療方法 副腎疾患の病態や検査・治療方法</p> <p>第6回 視床下部-下垂体後葉系疾患の病態や検査・治療方法 視床下部-下垂体前葉系疾患の病態や検査・治療方法</p> <p>第7回 科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(40点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 (医学書院)						
参考書	1. 系統別看護学講座 別巻 栄養食事療法 (医学書院)						
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ内分泌系の知識を活かし学んでいきます。積極的に時間の中で分からないことは質問をして解決して下さい。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学 年	1学年	履 修 期	2学期		
授業科目	疾病治療論Ⅲ (運動器、脳神経)								
単位・時間数	1単位・10/30時間	実務経験 の有無	有						
授業方法	講義								
科目目標	1.人体の運動器の病態治療を学ぶ。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第1回 症状とその病態生理 疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の障害 その他の障害</p> <p>第2回 診断・検査と治療・処置 検査 画像検査 電気生理学的検査 関節鏡検査 その他の検査 治療・処置 保存療法 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>第3回～第5回 外傷性(外因性)の運動器疾患 骨折 脱臼 捻挫および打撲 神経の損傷 筋・腱・靭帯などの損傷 内因性(非外傷性)の運動器疾患 先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 腱の疾患 神経・筋疾患 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢および下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 フレイル サルコペニア 廃用症候群</p> </td> </tr> </table>							<p>第1回 症状とその病態生理 疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の障害 その他の障害</p> <p>第2回 診断・検査と治療・処置 検査 画像検査 電気生理学的検査 関節鏡検査 その他の検査 治療・処置 保存療法 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具</p>	<p>第3回～第5回 外傷性(外因性)の運動器疾患 骨折 脱臼 捻挫および打撲 神経の損傷 筋・腱・靭帯などの損傷 内因性(非外傷性)の運動器疾患 先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 腱の疾患 神経・筋疾患 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢および下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 フレイル サルコペニア 廃用症候群</p>
<p>第1回 症状とその病態生理 疼痛 形態の異常 関節運動の異常 神経の障害 跛行 筋肉の障害 その他の障害</p> <p>第2回 診断・検査と治療・処置 検査 画像検査 電気生理学的検査 関節鏡検査 その他の検査 治療・処置 保存療法 理学療法と作業療法 手術療法 義肢と装具</p>	<p>第3回～第5回 外傷性(外因性)の運動器疾患 骨折 脱臼 捻挫および打撲 神経の損傷 筋・腱・靭帯などの損傷 内因性(非外傷性)の運動器疾患 先天性疾患 骨・関節の炎症性疾患 腱の疾患 神経・筋疾患 上肢および上肢帯の疾患 脊椎の疾患 下肢および下肢帯の疾患 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症 フレイル サルコペニア 廃用症候群</p>								
評価方法	筆記試験(35点)								
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 (医学書院)								
参考書									
備考 (メッセージ)	解剖生理学を理解してはじめて疾患の理解ができます。基礎的な解剖生理学についてはしっかりと覚えておきましょう。 授業中は、適宜質問しながら進めていきます。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院外講師	学年	1 学年	履修期	2学期		
授業科目	疾病治療論Ⅲ (運動器、脳神経)								
単位・時間数	1 単位・20/30 時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義								
科目目標	1. 脳神経疾患の病態治療を学ぶ。								
授業計画	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> 第1回 病状とその病態生理 おもな症状とその病態生理 第2回 検査・診断と治療・処置 診断と診察の流れ 検査 治療・処置 </td> <td style="width:50%; vertical-align:top;"> 第3回～第9回 疾患の理解 脳疾患 脳腫瘍 頭部外傷 脳脊髄液の異常 末梢神経障害 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患 脳・神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症 内科疾患に伴う神経疾患 第10回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分) </td> </tr> </table>							第1回 病状とその病態生理 おもな症状とその病態生理 第2回 検査・診断と治療・処置 診断と診察の流れ 検査 治療・処置	第3回～第9回 疾患の理解 脳疾患 脳腫瘍 頭部外傷 脳脊髄液の異常 末梢神経障害 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患 脳・神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症 内科疾患に伴う神経疾患 第10回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)
第1回 病状とその病態生理 おもな症状とその病態生理 第2回 検査・診断と治療・処置 診断と診察の流れ 検査 治療・処置	第3回～第9回 疾患の理解 脳疾患 脳腫瘍 頭部外傷 脳脊髄液の異常 末梢神経障害 筋疾患・神経筋接合部疾患 脱髄・変性疾患 脳・神経系の感染症 中毒 てんかん 認知症 内科疾患に伴う神経疾患 第10回 科目終了試験(50分) 科目の振り返り(40分)								
評価方法	筆記試験(65点)								
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経 (医学書院)								
参考書									
備考 (メッセージ)	新しい疾患に対して実際に看護する立場から知識を深めていってください。 興味をもって積極的に時間の中で分からないことは質問をして解決して下さい。								

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期
授業科目	疾病治療論IV (腎・泌尿器、生殖器)						
単位・時間数	1 単位・9/15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	泌尿器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。						
授業計画	<p>第1回 腎不全と慢性腎臓病</p> <p>第2～3回 尿路性器感染症 尿路の通過障害と機能障害 尿路損傷および異物 尿路結石症 尿路・性器の腫瘍</p> <p>第4回 前立腺癌</p> <p>第1～4回に共通する授業内容 各疾患に応じた検査と治療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な腎・泌尿器疾患の検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿検査 2) 腎機能検査 3) X線撮影 4) 超音波検査 5) 核医学的診断法 6) 経尿道的操作および内視鏡検査 2. 代表的な腎・泌尿器疾患の治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 尿路変更術 2) 腎移植 3) 前立腺摘出術 4) 透析療法 <p>第5回 科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(55点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ腎・泌尿器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。 テキストをよく読んでおいてください。内科的な腎炎、ネフローゼ、腎不全は国試によく出ているのでしっかりと学習していきましょう。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1 学年	履修期	2学期
授業科目	疾病治療論IV (腎・泌尿器、生殖器)						
単位・時間数	1 単位・9/15 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	女性生殖器疾患の特徴とその病態や検査・治療方法を理解する。						
授業計画	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な女性生殖器疾患の病態 <ol style="list-style-type: none"> 1) 卵巣がん 2) 子宮がん 3) 子宮筋腫 4) 子宮内膜症 <p>第2～3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 代表的な女性生殖器疾患の検査 <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞診 2) 組織診 3) 経膈超音波 4) 骨盤 CT・MRI 5) ホルモン検査 3. 代表的な女性生殖器疾患の治療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 卵巣摘出術 2) 円錐切除術 3) 単純子宮全摘術 4) 広汎子宮全摘術 4. 感染症 <ol style="list-style-type: none"> 1) 性感染症 5. 不妊症 						
評価方法	筆記試験(45点)						
テキスト	6. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	<p>専門的な看護を展開する基盤として、解剖生理学で学んだ生殖器系の知識を活かし、学習をすすめてほしいと思います。</p> <p>解剖やホルモン動態が分かれば疾患も覚えやすくなります。</p> <p>解剖生理学の内容を思い出して下さい。</p>						

科目区分	専門基礎分野	講師名	院内講師	学年	1学年	履修期	2学期
授業科目	微生物学						
単位・時間数	1単位・30時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義						
科目目標	1. 病原微生物の特徴と生体に及ぼす影響および感染対策について理解する。						
授業計画	<p>第1回 微生物と微生物学 微生物の性質 微生物と人間 微生物学の対象と目的 微生物学の歩み</p> <p>第2回 細菌の性質 細菌の形態と特徴 培養環境と栄養 細菌の遺伝 細菌の分類 常在細菌叢</p> <p>第3回 真菌の性質 真菌の形態と特徴 真菌の増殖 真菌の分類と命名法 栄養と培養</p> <p>第4回 原虫の性質 原虫の特徴と基本構造 病原原虫の種類</p> <p>第5回 ウイルスの性質 ウイルスの特徴 ウイルスの構造と各部分の機能 ウイルスの増殖 ウイルスの分類</p> <p>第6回 感染と感染症 微生物感染の機構 感染の成立から発症・治癒まで 細菌・真菌・原虫・ウイルス感染の機構</p> <p>第7回 感染に対する生体防御機構 自然免疫のしくみ 獲得免疫のしくみ 粘膜免疫のしくみ 感染の徴候と症状</p> <p>第8回 感染源・感染経路からみた感染症 経口感染 経気道感染 接触感染 経皮感染 母児感染</p> <p>第9回 滅菌と消毒 感染症の検査と診断</p> <p>第10回 感染症の治療 化学療法の基礎 各種化学療法薬 その他 感染症の現状と対策 感染症の変遷 感染症の現状と問題点 感染症への対策</p> <p>第11回 病原細菌と細菌感染症 グラム陽性球菌 グラム陰性球菌 グラム陰性好気性桿菌 グラム陰性通性桿菌 カンピロバクター属 グラム陽性桿菌 抗酸菌と放線菌 嫌気性菌 スピロヘータ マイコプラズマ リケッチア目 クラミジア科</p> <p>第12回 病原真菌と真菌感染症 深在性真菌症をおこす真菌 深部皮膚真菌症をおこす真菌 表在性真菌症をおこす真菌</p> <p>第13回 病原原虫と原虫感染症 根足虫類 鞭毛虫類 孢子虫類 絨毛虫類</p> <p>第14回 病原ウイルスとウイルス感染症 DNAウイルス RNAウイルス ウイルスの臨床的分類</p> <p>第15回 科目終了試験 科目の振り返り</p>						
評価方法	筆記試験(100点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)						
参考書							
備考 (メッセージ)	看護師として理解して欲しい内容を分かりやすく講義します。						

科目区分	専門基礎分野	講師名	専任教員	学年	1学年	履修期	2学期
授業科目	健康支援論						
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習						
科目目標	1. 健康および健康増進の意義や考え方を理解する。 2. 看護における健康支援(学習支援)の必要性と方法について基本技術を理解する。						
授業計画	<p>第1回(講義)</p> <p>1. 健康とは</p> <p>1) 健康とは</p> <p>2) 健康づくりの変遷(健康日本21への展開)</p> <p>第2～4回(演習)</p> <p>1. 対象の健康保持増進に向けた支援</p> <p>1) ライフサイクルと健康</p> <p>(1) ライフサイクルの各発達段階の特徴</p> <p>(2) ライフスタイルによる将来の健康破綻予知</p> <p>第5回(演習)</p> <p>「ライフサイクルと健康」グループ発表</p> <p>第6～7回(講義・演習)</p> <p>1. 健康教育とは</p> <p>1) 健康教育の目的</p> <p>2) 健康教育の対象</p> <p>2. 健康教育の基盤となる理論、行動変容への方策(講義)</p> <p>1) エンパワメント</p> <p>2) 自己効力感</p> <p>3) 保健信念モデル</p> <p>4) 変化のステージモデル指導の対象者と領域</p> <p>3. 健康教育の方法、内容と特徴(演習)</p> <p>1) 対象集団の特徴の違い</p> <p>2) 指導技術</p> <p>(1) 指導内容</p> <p>(2) 指導教材の活用</p> <p>(3) 指導におけるアプローチ方法</p> <p>第8回</p> <p>科目終了試験</p>						
評価方法	筆記試験(70点) 指導に関するレポート(30点)						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術I (医学書院)						
参考書	1. 新体系 看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術I (メヂカルフレンド社)						
備考 (メッセージ)	地域・在宅看護論「龍馬の創った高知学」と関連した科目でもあります。地域住民への健康支援ができるようその技術を学んでいきましょう。						